

食育だより

令和2年(2020)年

11月号

豊中市立第一中学校

この食育だよりは豊中市立第一中学校ホームページからもご覧いただけます。

ちきゅう ワンヘルス

地球は1つ。One Health!



～人間・動物・環境の健康と食育～

世界を揺るがした新型コロナウイルス感染症は、中国のコウモリが持っていたウイルスが人間に感染したのが始まりといわれています。こうした感染症を「人獣共通感染症」といいます。新型コロナウイルス以前にも、アフリカで起きたエボラ出血熱、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(SARS)などがこうした人獣共通感染症として知られています。

今回は人間、環境、植物、家畜など、すべての生物の健康を守っていくことが大切だという考え方の1つ、「One Health」(ワン・ヘルス)について考えてみましょう。

COVID-19



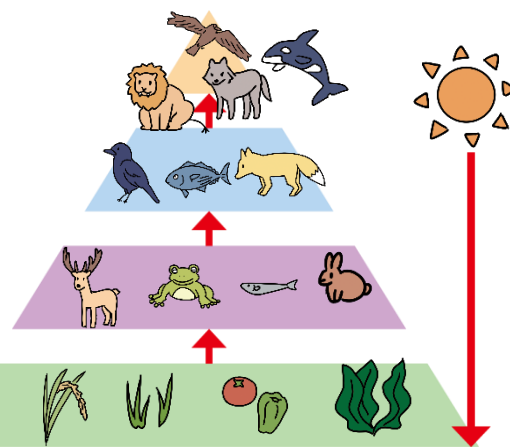
にんげん どうぶつ けんこう じゅうよう

人間と動物がともに健康であることが重要

～生態系を守るために～

小学校の理科で食物連鎖や生態系のことを勉強したと思います。生物は「食べる・食べられる」関係でつながっています。動物が食べるものをたどっていくと植物につながります。植物は日光を受けてデンプンなどの養分を作りますが、このとき植物は、空気中の二酸化炭素を取り入れて酸素を出しています。このように、植物と動物は食べ物としてだけでなく空気を通しても関わりあって生きています。

地球上の生態系の保全是、こうした大きな営みの中で、人間と動物、そして植物なども含めた生物がすべて健康であることで初めて達成できるものです。その実現と維持のために、とりわけ今、人間と動物の健康維持に向けた取組が必要だといわれています。



出典 内閣府食品安全委員会事務局

にんげん どうぶつ かん けい み なお たが けん こう

人間と動物の関係を見直し、互いに健康に!

「One Health」という考え方が広まったのは、開発や地球温暖化などの環境の変化で野生動物と人間との接触機会が拡大したこと、そしてグローバル化が進み、感染した人が短期間で極めて広い距離を移動できるようになったことが背景にあります。

こうした変化に対し、今までのように感染した人を治療するだけでは不十分なのではないだろうか。そして、人間と動物、さらに生態系との関係を見直し、環境の改善を図って、それぞれの健康を維持・増進させなければ、今後もこうした大流行は防げないという認識が高まってきたのです。このOne Healthの考え方は、2004年に国際会議が行われた場所にちなんで「マンハッタン原則」(感染症リスクの抑制を計る戦略的試み)とよばれることもあります。

One Health



One Healthを実現するために

食品ロスを減らそう!

食べ物の「いのち」を
そまつにしないため

地球環境を
守っていくため



「食品ロス」とは、まだ食べることができるのに、ごみとして捨てられてしまう食べ物のことです。日本では毎年600万トン以上もの量が発生しています。日本人1人あたり、毎日お茶わん1杯分のご飯を捨てているのと同じ量になり、これは世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量(2018年で年間390万トン)をはるかに超えています。大切な食べ物をむだにせず、また地球環境を守っていくためにも食品ロスを減らす努力が大切です。